

事例40 大学生・福祉委員会・社協が連携した高齢者との手紙交流

分類：

居場所

アウトリーチ

相談

学習支援

見守り

住民主体

運営団体基本情報

● 運営団体名	社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会	● 代表者名	金戸 省三	● 所在地	大阪府吹田市出口町19-2
● スタッフ構成	職員数：30人（職種：CSW、生活支援Co 他）	● 運営財源	吹田市社協賛助会費、共同募金、行政からの事業委託金等		
● 連絡先	TEL：06-6339-1254 Mail:suisyakyo@mua.biglobe.ne.jp	● ホームページ (参考情報)	http://www.suisyakyo.or.jp/		

新型コロナウイルス感染症拡大前の事業概要

● 対象者層	地域住民（子育て中の親子・高齢者・障がい者等）	● 活動頻度	五月が丘地区福祉委員会 ・月2～3回	● 活動場所	東佐井寺地区公民館
● 活動の形態	五月が丘地区福祉委員会 ・ふれあい昼食会、いきいきサロン、子育てサロン等	● 平均利用者数	五月が丘地区福祉委員会 ・約45人（1回）	● 利用料金	五月が丘地区福祉委員会 ・ふれあい昼食会のみ1回200円

[活動の特徴と新型コロナウイルス感染症対策]

● 具体的な活動	● 新型コロナウイルス感染症拡大前	五月が丘地区福祉委員会は昭和62年に組織後、高齢者・子育て中の親子・障がい者等のサロン活動や見守り活動を実施。住民同士の交流の場として地域に根付いていた。大阪大学学生グループ「すいすい吹田」は大阪府北部地震後に結成。「住民同士のつながりが地域防災に重要」と、学内での情報共有や地域の防災訓練等に参画していた。	● 活動経費	すいすい吹田：自己資金（インク代、コピー代、郵送費等） 福祉委員会：吹田市社協助成金等（用紙代、印刷代等）
	● 新型コロナウイルス感染症拡大後の取組と工夫	五月が丘地区福祉委員会（以下、福祉委員会）では、主催する昼食会（一人暮らし高齢者対象）が開催自粛となった。そこで高齢者に配布していた昼食会開催案内を生活支援情報（体操、脳トレ、詐欺被害防止チラシ等）に変更。訪問・配布し安否確認時に把握した高齢者の声（外出自粛で生活に影響が出ている等）を吹田市社協に報告していた。そのような中、大阪大学学生グループ「すいすい吹田」では、高齢者等の外出自粛による心身への影響を危惧し何か出来る出来ないか、大阪府北部地震時に一緒に被災者支援を行った吹田市社協に相談した。吹田市社協は福祉委員会からの報告や、同地区の防災訓練に参画していた「すいすい吹田」からの相談を受け、両者をコーディネート。緊急事態宣言下、大学生等とオンライン会議等で検討し、大学生が手紙を書き福祉委員会が生活支援情報と一緒に高齢者に配る仕組みづくりを行った。福祉委員会も「相互の交流につながれば」と独自に返信用封筒を同封し、高齢者から大学生に返事を書く機会を提供した。それを通して大学生と高齢者の交流につながった。	● その他、特記事項	施設入所等を除いた約120人に訪問・配布活動を実施。高齢者から大学生への返信は約30通ほど。高齢者の感想（抜粋） 「今回、どこかで陰ながら見守ってくれている、気にかけてくれている学生さんがいることを知りました。隣の娘さんに声をかけられた気分で、大変うれしく感謝の一言です。磯野家（サザエさん）の裏の老夫婦の気分です。来年一部の方は卒業ですか？淋しくなります。これからも気にかけていただければ嬉しいです。」 現在も手紙交流を続けながら、大学生・五月が丘地区福祉委員会・吹田市社協で、住民が交流する企画を検討中。 ★市町村基本情報 大阪府吹田市 大阪府北部に位置する。 人口 374,633人 高齢化率23.8%（2020.4末）
● 取組の効果	高齢者の楽しみや生活意欲を創出できた。従来の住民同士の交流に加え、大学生との交流は高齢者を勇気づけた。大学生も地域防災の要となる住民同士の交流の一翼を担った。			

